

ばんげい 教育ほつにゅーず かわら版

こ みち

教育の小径

2010年

6月号
No.20

今月の花／花菖蒲
花ことば／あなたを信じます



今月の歳時記

衣替え

季節の変化に応じて衣服を着替えることです。「衣更」「更衣」とも言います。この習慣は平安時代の宮中行事から始まり、当時は旧暦の四月と十月でした。六月一日と十月一日に、学校や官公庁などで衣替えが行われるようになったのは明治以降です。気候の関係で、衣替えの時期を変えている地域もあります。



北 俊夫先生
国士館大学教授

今月のテーマ 学習計画作成の意義と実際

- 子どもが自らの「学習計画」を作成することによって、学習に対する見通しと問題解決への切実性をもたせ、主体的な学習態度を養うことができます。
- 学習の内容や方法などを具体的に記述した「学習計画カード」は、子どもの自己点検の結果や教師からの助言を記録するためにも活用できます。

なぜ、学習計画なのか

学校や教師は、各教科等の学習指導を進めたり教育活動を展開したりするときに、必ず「指導計画」を作成しています。さまざまな種類の指導計画を作成することは、各学校が主体性と創意工夫を発揮しながら、意図的、計画的に、そして組織的に教育活動を展開するために必須の要件です。

新学習指導要領の総則にも示されているように、子どもたちに「主体的に学習に取り組む態度」を養うことが改めて課題になっています。主体的な学習態度を養う一つの手だてとして、「学習計画」の作成が考えられます。これは、教師の作成した指導計画と適切な指導のもとに、子ども自身に「学習計画」を作成させるものです。

従来、多くの場合、子どもたちは教師の指示や命令を待ちながら、それらに従って学習を進めていました。いわゆる「指示待ち」でした。こうした場



面が必要なこともあります。これだけでは「主体的に学習に取り組む態度」を養うことはできません。

子どもたちに学習計画を作成させることによって、これからの学習に対して見通しをもたせ、問題解決への切実性を育てることができます。その結果、子どもたちは目的意識をもって、意欲的な態度で学習に取り組むようになります。

方法と内容を計画させる

「学習計画」を作成させるとは、具体的に何について計画させることでしょうか。社会科や総合的な学習などの時間に、教師が「どのように調べたらよいでしょうか」「どのようにまとめますか」と、子どもたちに調べ方やまとめ方を考えさせている場面に出会います。これらは「学習計画」の作成を子どもたちに求めているものです。

子どもたちからは「図書館で本を探します」「インターネットで調べます」など、調べる方法についての答えが返ってきます。学習は方法（いかに）だけでは成立しません。何を調べるのかといった「内容」についても計画させるように助言することが大切です。

「学習計画」を作成するとは、「何のために」「何を」「いかに」学習す

るのかを予め明らかにすることです。できれば、どこで、いつまでに、どのように整理するのかなどについても計画できるとよいでしょう。計画する対象は、学習を成立させる全ての要素になりますが、具体的には教科や教材の特質、子どもの発達段階などによって判断することになります。子どもの状況を見て、教師が指示する事項もあります。全てを子どもに任せてしまうことは望ましくありません。

「学習計画カード」のすすめ

教師は「指導計画」を印刷物として作成します。子どもに作成させる「学習計画」も一枚のカードに作成させるとよいでしょう。これによって、学習の展開を一覧することができます。日にちや項目ごとに「反省」の欄があると、子どもは自己点検しながら学習を進めることができます。学習の状況に応じて、追加、修正することもできます。また、教師の助言などメモする欄を設けておくことも考えられます。

このように、学習計画を作成するとは、子ども一人一人が「学習計画カード」を作成し、日常的に活用しながら、学習の展開一体に活用されてはじめて意味をもちます。作成すれば終わりというものではありません。

社会科、生活科、家庭科、総合的な学習をはじめ、道徳の時間などでも、地域の住民やNPOなどの団体、企業や行政などの人たちが授業の協力者として、子どもたちにかかわる場面が増えてきました。地域の人材を活用することによって、その道の専門家から指導を受け、地域のさまざまな人たちとのかかわり合いをつくることができます。地域の人たちは子どもたちによって、また教師にとっても貴重な存在であり、「もう一人の先生」です。その意味で「人材」ではなく「人財」と表すことがあります。

授業などの場で地域の人たちに協力をいただくとき、教師が地域の人に任せてしまい、丸投げしてしまっている場面に出会うことがあります。子どもたちが理解できない用語などが登場したときには補足したり、子どもたちに質問させたりするなど、状況を見ながら適切にかかわることが大切です。

地域の人材を活用する場面は、もう一つのチームティーチングであると考えるとよいでしょう。



家庭での学習について、子どもの自主性を尊重するという考えから、「宿題を出さない」学級や、何をやってもよい「自由勉強」という課題を出している学級があると聞きます。一方、保護者の多くは家庭での学習習慣を身につけさせたいという願いから、学校に適切な量の宿題を求めています。

新学習指導要領の総則に「家庭との連携を図りつつ、児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない」ことが新たに示されました。これは学校が家庭での課題（宿題）を提示し、学習時間を設けることを求めているものです。出した宿題については、授業などでその結果を点検します。

家庭での学習は、基本的に子どもが

一人で取り組みます。そのため、宿題に出す教科はもとより、内容や量などに十分な配慮が必要です。取り組む時間にも個人差があります。塾やお稽古事に通っている子どももいます。

宿題の出し方一つにも、教師の指導のあり方が問われます。保護者会や面談などの場で、学校や担任の方針をしっかりと伝えておくようにします。



教育キーワード 「心のノート」

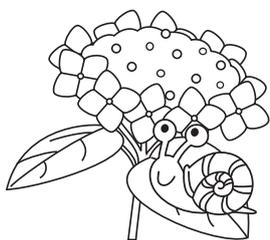
「心のノート」は、子どもたちが道徳の内容を身につけ、道徳的価値について自ら考えることができるように、文部科学省によって編集された副読本です。子ども用に小学校の低学年、中学年、高学年、中学校の4種類、教師向けには「心のノート 活用のために」と「『心のノート』を生かした道徳教育の展開」が作成されています。

これらは、道徳の時間に活用するだ

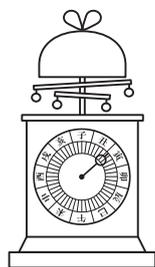
けでなく、朝学習や学級活動、関連する教科等などさまざまな教育活動の場面で活用することができます。また、家庭で保護者が話題にするとき、教材として活用することもできます。

本副読本は、これまで文部科学省が全ての子どもたちに配布してきましたが、来年度からWEB上に掲載されます。希望する教育委員会には、文部科学省から配布される予定です。

学級通信に使える今月のイラスト



アジサイとカタツムリ



和時計(時の記念日)

編集後記

ついこの間新学期を迎えたと思ったらもう6月。5月には「児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」の通知が文部科学省から出されました。各地では、来年度から使われる教科書の展示も始まりました。新学習指導要領の完全実施まであと1年足らず、待たなしです。(H記)

Information (PR)

新刊 新しい指導計画作成のための
**目的分析と
具体的評価規準**

小学校
国語・社会・算数・理科

新しい評価の観点に対応!

学習活動の
まとまりごとに
評価規準を提示!

- ◎監修 梶田 敏一
- ◎定価 1,800円(税込)
- ◎付録 CD-ROM(評価規準シート)
- ◎発行 株式会社文溪堂

A4判・272ページ・2色

